

日本学術会議主催 学術フォーラム
「欧州とアジアの地域紛争をめぐる平和的解決と
世界経済の行方—学術共同の観点から—」

「地域紛争の平和的解決に関するASEANの役割と課題」

2023年7月9日（日）

14:45—15:00

首藤もと子

概要

2

1. はじめに：「境界線」をめぐる紛争：対話、安定、発展の制度化
⇒ ASEANは「境界線」をめぐる紛争にいかに対応してきたか
2. 規範の確立：ASEAN政治安全保障共同体（APSC）の活動
3. 紛争の種類とASEANの対応：
 - (1) 国境画定をめぐる紛争：外交協議、ASEANの仲介外交
 - (2) 南シナ海領有権問題：行動規範(COC)協議中の一方的現状変更
 - ・ 閣僚会議共同声明、ASEAN-China SOM-DOC
 - ・ ASEAN Outlook on the Indo-Pacific (AOIP)
 - ・ ASEAN 諸国の対中認識
 - (3) ミャンマー危機に関する「5項目合意」と一部関係国の独自の外交行動
 - (4) ウクライナ戦争への対応
4. 小括：特徴と課題

1. 規範の確立：ASEAN政治安全保障共同体（APSC）の活動

3

- ◆ 「ASEAN協和宣言」（1976. 2） 東南アジア友好協力条約（TAC）（1976. 2）
内政不干渉の原則、相違や紛争の平和的方法による解決 → 指導者間の合意
- ◆ 「ASEAN協和宣言（II）」（2003.10.7）
→ Vientiane Action Program(VAP) 2004~2010

域外諸国との関係拡大とASEAN「中心性」「効果的な推進者」（2006）
- ◆ 「ASEAN憲章」（2007. 11.20署名、2008.12.15発効）
人権・基本的自由の擁護と促進、地域的強靱性、公正、民主主義、
Good Governance と「法の支配」 “people-oriented ASEAN”
 - 価値規範の共有に基づく「安全保障共同体」像
 - 新しい制度化（AICHR 等）

ASEAN 政治安全保障共同体 (APSC) Blueprint (2009.3)

4

A. 共通の価値・規範:

政治発展（民主主義の促進、Governance向上、法の支配、人権の保障）

共通規範の形成による平和の追求、 TACに基づく南シナ海の秩序

- 紛争の平和的解決（武力の非行使）の規範に基づく国家間関係の制度化
明記された国内規範（民主主義、基本的人権、政治的多元性）

B. 総合的安全保障のための統一的で平和的な地域的強靱性

予防外交、信頼醸成措置、紛争の平和的解決、

非伝統的安全保障の問題（越境的犯罪、テロ等）

C. ダイナミックで外向的な地域

アジア太平洋地域秩序における「ASEAN中心性」

多国間協力の強化

APSC Blueprint 2016～2025

5

➤ 非伝統的安全保障：

武器密輸、人権・人身売買、テロ対策、国際経済犯罪・資金洗浄、国境管理、
入国管理・領事関係、Cyber Security、不法薬物

➤ 予防外交、防衛協力：

ASEAN 国防相会議 (ADMM、2006～)

ASEAN拡大国防相会議 (ADMM-Plus 2010～)

➤ ASEAN非核地帯：

ASEAN Network of Regulatory Bodies on Atomic Energy (ASEANTOM) 2013

➤ 海洋安全保障：

海洋安全協議・協力 ASEAN Maritime Forum (AMF, 2010/ EAMF, 2012)

海上輸送の安全対策地域協力 Regional Cooperation Agreement on

Combating Piracy & Armed Robbery against Ships in Asia ([ReCAAP](#), 2006)

南シナ海の状況

2. 紛争の種類とASEANの対応

(1) 国境画定をめぐる紛争：交渉と仲介外交

6

交渉による域内紛争鎮静化

(近年の事例)

① マレーシア新地図発行 (1979) に関する周辺国対応

◆ Ligitan島、Sipadan島領有権、ICJに付託する 合意調印(1997.5) ⇒ ICJ判決(2002.12.17)

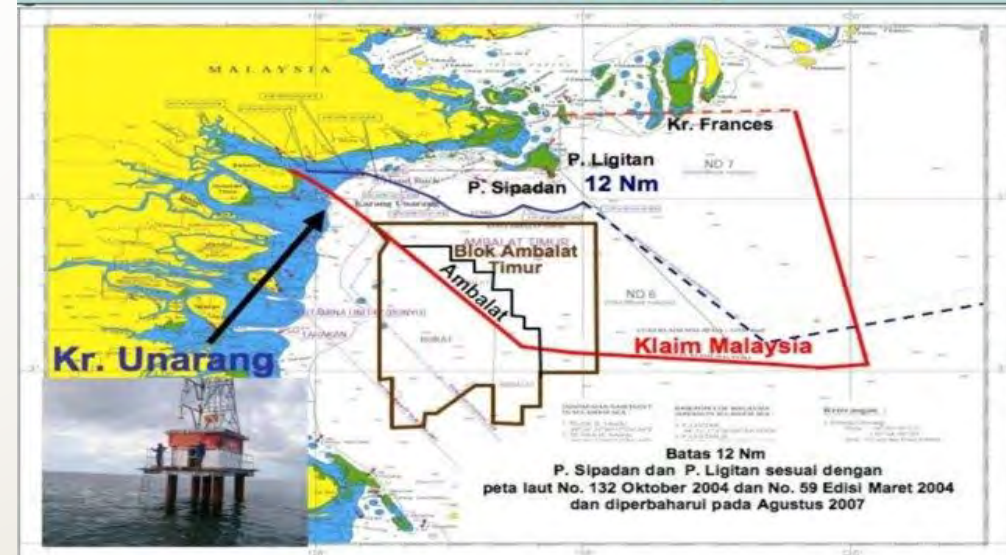
Ambalat 海域をめぐる対立
「スラウェシ海の領海に関する条約」(2023.6.8)

「18年間の交渉の成果」
ただし、「Ambalat 海域は含まれず」

◆ Pedra Branca 島とその周辺の岩礁領有権に関する
ICJ判決(2008. 5.30)



RI - MALAYSIA SEGMENT LAUT SULAWESI
(LAUT TERITORIAL, ZEE, LK)



Batas 12 Nm
P. Sipadan dan P. Ligitan sesuai dengan
peta laut No. 132 Oktober 2004 dan No. 59 Edisi Maret 2004
dan diperbaharui pada Agustus 2007

②カンボジア・タイの Preah Vihear Temple周辺をめぐる紛争：2008-2011

7

- ◆ 発端： 2007年カンボジアが同寺院遺跡を世界遺産に登録申請する際、タイ外相がユネスコの要請の応じて共同申請に合意した
- ◆ 展開： 2009～2011年 両国軍による断続的な戦闘

インドネシア（ASEAN議長国）のシャトル外交、三者協議による包括的解決策の提示
(2011.2.22)

合同国境委員会の立ち上げ

停戦監視

インドネシア・オバザーバー・チーム(IOT) を派遣

- カンボジア：IOTの受入合意協定署名（2011.5） 「15名の軍人または文民」
- ICJ：「両国軍とも即時撤退すべき(賛成11-反対5)、暫定的非軍事化地域(17.3km²)を設置して、ASEANが任命した監視員を置くことを要請する（賛成15-反対1）(2011.7.18)
- タイ、カンボジアの双方の部隊撤収（2012.7月開始）

(2) 南シナ海領有権問題：行動規範(COC)協議中の現状変更 希薄化され相対化される領有権問題

① 毎年の継続的交渉

- ◆ 行動規範に関する ASEAN中国高官協議WG第1回会合 (2000.5.26: KL)
- ◆ 2002年11月 ASEAN・中国首脳会議で合意、「南シナ海の係争当事国間の行動宣言 (Declaration on the Conduct of Parties in the South China Sea : DOC) 」
 - 国連海洋法条約(UNCLOS)等に基づき、関係国間で平和的手段により解決する
 - その間、各国の国防軍事関係者の対話、情報交換による信頼醸成措置 (CBM) 航行安全、捜索救難、海洋環境保全、海洋科学調査、越境犯罪対策等の協力活動
- ◆ 現在に至るまで、毎年の閣僚会議議題として、共同声明に記載 (記述の特徴)
 - 「埋立活動、海洋環境破壊等の深刻な影響、緊張を高め信頼を損なう行動に懸念」
 - 「ASEAN・中国の関係強化の進展を歓迎する」
- ◆ DOC履行に関するASEAN中国高官協議 (SOM-DOC) 2004年～ 現在に至る ➡次頁
- ◆ ASEAN-中国首脳会議での本件議題の順 (2010. ベトナムで開催。21議題中の17番目)

➡ The 20th SOM-DOC (ベトナム) 2023-5-17

「率直で、友好的で実務的な雰囲気で行われ、全当事者が合意した」

➤ 全面的かつ効果的な DOCの実現

南シナ海における行動規範(Code of Conduct in the South China Sea: COC).

“All parties … agreed to speed up consultations and finish the second reading of the draft negotiating text within the year.”

➤ 相互信頼に基づき、自制的な行動をとる

➤ 「行動規範」協議と実務的協力（搜索救難活動や海洋環境保護等）の包括的協議

◆ ASEAN Outlook on the Indo-Pacific (2019.6)

原則：ASEAN 中心性、包摂性等

「海洋協力」分野、同一の原則確認

② 連結性（Connectivity）マスター・プランの融合

(1) 中国ASEAN平和と繁栄のための戦略的パートナーシップ宣言（2003.10）

- 第1次行動計画（2005-2010）
- 第2次行動計画（2011-2015）
- 第3次行動計画（2016-2020）
- 第4次行動計画（2021-2025）

(2) ASEAN連結性（Connectivity）マスター・プラン（2010.10）

ASEAN 域内の連結性強化と域内の格差の是正, グローバルな競争力向上を目指す

ASEAN 連結性2025マスター・プラン(MPAC: 2015.11)

➔ 中国とASEAN、一帯一路（BRI）と MPAC 2025 との相乗効果創出に合意（2019.11）

ASEAN中国特別首脳会議(2021.11.22 オンライン)

「ASEAN中国包括的戦略パートナーシップ」に格上げ、「運命共同体」 5項目提案

③認識 A. 東南アジアで最も政治安全保障面の影響力がある国は？

	(2020: N=1269)	(2022: N=1677)	(2023: N=1133)
1. 中国	52.2%	54.4 %	41.5%
(例) カンボジア	57.5	75.3	72.4
2. 米国	26.7	29.7	31.9
(例) フィリピン	38.0	51.0	44.4
3. ASEAN	18.1	11.2	13.1

B. 東南アジアで最も経済的影響力のある国は？

	(2020: N=1269)	(2022: N=1677)	(2023: N=1133)
1. 中国	79.2%	76.7 %	59.9%
(例) カンボジア	88.5	84.0	75.4
2. 米国	7.9	9.8	10.5
(例) フィリピン	16.1	18.3	26.3
3. ASEAN	8.3	7.6	15.0

(Source) Seah, S. et als., *The State of Southeast Asia, 2021 Survey Report*, Singapore : ISEAS Yusof Ishak Institute, *2020 Survey Report*, pp.16-18. 2023 Survey Report, pp. 25-27.

C: 南シナ海の状態に関する懸念 (2021)

懸念事項	% (N=1,032)
中国の軍事化と一方的行動 (A)	62.4
中国による他の沿岸国の海洋区域の囲い込み (B)	59.1
米中軍事対立	45.2
漁業資源の枯渇および生物多様性の喪失	20.8
米国の軍事的プレゼンス強化	12.5

	ASEAN	BR	CA	ID	LA	MY	MM	PH	SG	TH	VN
(A)	62.4	48.5	46.2	57.4	45.0	48.7	60.9	71.6	65.8	66.4	76.0
(B)	59.1	63.6	30.8	60.5	32.5	63.2	39.1	86.6	44.9	59.5	84.6

(Source) Seah, S. et als., *The State of Southeast Asia, 2021 Survey Report*, Singapore : ISEAS Yusof Ishak Institute, 2021, p.15.

④ 海洋安全保障の能力構築支援、合同軍事演習

13

米国との軍事教育訓練 CARAT (Cooperation Afloat Readiness and Training)
インドネシア、マレーシア、シンガポール、タイ

(フィリピン) 防衛協力強化に関する協定 (EDCA、2014.4) に基づき、2016年3月、5カ所の空軍基地を米軍との防衛協力の拠点とすることについて合意、 2023.2 さらに4カ所増加 (計9カ所) フィリピン・豪州合同軍事演習。 豪州との防衛会議の定例化について合意。

2023.4.22 中国外相、訪比。「経済協力のさらなる多様化、強化のために緊密に協力する」 (秦剛外相)
「南シナ海の立場の相違が両国関係のすべてではないと確認した」 (マナロ外相)

(シンガポール) 2019年10月中国と防衛交流・安全保障協力協定、 中国と二国間の海軍演習も実施
2020年3月、豪州とは軍事訓練と豪州内の訓練エリア開発に関する条約に署名

(インドネシア) 米軍との合同演習2週間 Garuda Shield (2007~2012)
Super Garuda Shield (2022~)

Natuna諸島海域



- 2022.12, 22 インドネシアとベトナム、南シナ海での排他的経済水域（EEZ）をめぐる交渉妥結、境界線が画定したことを確認。
- 2020 ナトゥナ諸島の海軍基地強化
- 2022. 北ナトゥナ海 の経済特区化、 インドネシア政府、複数の鉱区で企業にガス田探査権の承認
- 中国の海警、調査船活動、常態化
- **第1回 ASEAN 合同海軍演習（2023.9 実施予定）の発表** ⇒ 演習場所の変更発表（6.22）

(3) ミャンマー危機に関する「5項目合意」と一部の独自外交

15

「合意」と、その後の相反する行動

- ◆ 2021.2 クーデタ直後
「深い憂慮」シンガポール、インドネシア、マレーシア、のちフィリピン
「内政問題」タイ、カンボジア

- ◆ 2021.4. ASEAN 緊急サミット（10カ国全員出席、対面） 5項目合意
 - ①暴力の即時停止
 - ②全ての当事者による建設的な対話の開始
 - ③ASEAN議長特使による対話プロセスの仲介
 - ④ASEAN防災人道支援調整センター（AHAセンター）を通じた人道支援
 - ⑤ASEAN特使及び代表団によるミャンマーの訪問と全ての当事者との面会

- 2021.6 国連総会「ミャンマー状況に関する決議」ASEAN 4カ国：BR.CA.LA.TH棄権
- 2022. 12 国連安保理「ビルマに関する決議2669」賛成12、棄権4（中国、ロシア、インド）

- 2023.1 議長国インドネシア、ASEAN ミャンマー特使事務局を設置
軍事政権の高官をASEANのハイレベル協議に招待しない原則、全当事者参加の対話の模索

- AHA センターによる災害支援物資提供. 2023. 5～6月

タイ主導の非公式閣僚会合

16

- ▶ 2022. 12.22. タイ、ミャンマーの政治危機に関する非公式閣僚会議開催
ASEAN 5カ国参加（CA. LA. Myanmar≪ 軍事政権の閣僚3名≫、TH、VN）
- ▶ 2023.2.28-3.1 「ASEAN 国境管理協力対話」の直後にタイ・ミャンマー非公式会合
- ▶ 3.8 第23回BIMSTEC 次官級会合（オンライン）タイ、ミャンマー、南アジア5カ国
- ▶ 4.24-26 ミャンマー情勢に関する「1.5トラック」会合（ASEAN-ISIS）中国、インド、
バングラデシュ

特徴

- ◆ ASEANの政治的メッセージ と SOM以下実務者協議の継続
- ◆ タイ主導のミャンマーの閣僚も招いた非公式協議

5項目合意を協議するための便宜上の手段なのか？

2021年2月のクーデタを既成事実化して関係改善を促進する動きなのか？

(4) ウクライナ戦争への対応

年/ 議長国	ASEAN 閣僚（外相）会議共同声明	ASEAN 首脳会議共同声明
2021/ Brunei	8.2 (オンライン) 言及なし	10.26 (オンライン) 言及なし
2022/ Cam.	8.3 「ウクライナ情勢」 (全119 項目中第118項目) ・ 国家主権・領土保全の国際法原則の尊重 ・ 敵対行動の即時停戦と平和的紛争解決の環境設定 ・ 迅速で安全かつ妨害されない人道支援の実現	11.11 (全106 項目中 第106項目) 左記と同じ
2023/ Ind.	8 月の予定	5/10-11. (全125 項目中第124項目) ・ 国家主権・領土保全の国際法原則の尊重 ・ ウクライナ戦争による経済的影響を緩和する努力

cf. 第29回ARF (2022. 8.)

国家主権・領土保全の国際法原則の尊重

迅速で安全かつ妨害されない人道支援の実現

「根源的要因も検討すべきであり、すべての関係国の正当な懸念を考慮すべきとの意見に留意する」

国連総会決議でのASEAN諸国の投票行動

国連総会 決議/日付	内容	賛成	反対	棄権	欠席	計
ES 11/1 2022.3.2	ウクライナに対する武力行使の即時停止と完全撤退を要求する	141 (日本、ASEAN8カ国*)	5**	35 (中国、LA、VN)	12	193
ES11/2 2022.3.24	ロシア軍の撤退と即時停戦を要求、民間人攻撃を非難	140 (日本、ASEAN7カ国*)	5	38 (中国、BR、LA、VN)	10	193
ES11/3 2022.4.7	国連人権委員会のロシアの資格停止を要求する	93 (日本、PH、MY*)	24(中国、LA、VN)	58 (ASEAN6カ国)	18	193
ES11/4 2022.10.12	ウクライナ東部4州***で行われた住民投票は無効である	143 (日本、ASEAN 7カ国*)	5	35 (中国、LA、TH、VN)	10	193

- * MY(ミャンマー)国連代表は、2021年2月のクーデター前の代表団
- ** ロシア、ベラルーシ、北朝鮮、エリトリア、シリア
- *** ドネツク、ヘルソン、ザポリージャ、ルハンスク州

ウクライナ戦争に対するASEAN諸国の対応

- ➡ ロシアの軍事侵攻には反対するが、シンガポールを除きロシア制裁に不参加

軍事侵攻を非難するより、実利を優先（ロシアとの貿易、兵器供給等への影響を受けたくない）

- ➡ 中国が反対、棄権した場合には、それに同調している（➡中国との関係）
- ➡ アメリカが創ろうとする秩序は、「結局自国の利益のためのものである」共感の低下

4. 小括：ASEANの役割の特徴と課題

20

- 共通の意思と、それを支える制度があれば、国家間紛争要因は鎮静化が可能
和解の研究 ⇒ The ASEAN Institute for Peace and Reconciliation (ASEANIPR)
- ASEANにとって最優先の価値は "inclusive" な協力関係 ⇒ 「ASEAN中心性」の要因
- 顕著に非対称的な関係性での領有権・資源開発権をめぐる紛争要因は、
包括的経済協力枠組みのなかで相対化、希薄化されている
ASEAN諸国内の対中認識（「深く懸念する」が、「最も影響力がある」）
- 地域内の体制の正当性をめぐる対立、武力紛争の長期化（ミャンマー）
政治的メッセージ(首脳会議不招待) と 実務レベル協議の継続
 - ➔ 当座の手段か、APSCの限界か
 - ➔ タイの独自外交は、新たな方策の可能性か、原則の逸脱か
- 地域的規範の反復 と 個別の外交政策の展開（国家安全保障、経済利益）